

笹川名誉院長と市立病院の歩みを紹介します

- | | |
|---|--|
| <p>1993 (平成5) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・副院長として赴任 ・MRIが稼働開始 <p>1994 (平成6) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合窓口を開設 ・人工透析装置を更新 <p>1995 (平成7) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・結核病床を廃止 ・阪神大震災の被災地に看護婦を派遣 <p>1996 (平成8) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移転改築準備室を設置 ・患者輸送業務を開始 <p>1997 (平成9) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害拠点病院に指定 ・移転建設地が東雲町に決定する <p>1998 (平成10) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新病院着工式を実施 <p>1999 (平成11) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2000年対応新コンピューターシステムが稼働 ・市民公開講座を開設 <p>2000 (平成12) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回健康フェスティバルを開催 <p>2001 (平成13) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新病院が完成 ・院内ボランティア活動を開始 ・クリスマスロビーコンサートを開催 <p>2002 (平成14) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページを開設 ・病院の理念および基本方針を整備 <p>2003 (平成15) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営健全化計画がスタート ・ナースキャップを廃止 ・病院広報誌「あしたば」創刊 <p>2005 (平成17) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市が「健康都市宣言」を行う ・遠隔診療支援システムが稼働 <p>2006 (平成18) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4階東病棟51床が休床 ・マルチCTが稼働開始 ・西條院長が退職 | <p>2007 (平成19) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方公営企業法全部適用に伴い、留萌市病院事業管理者(院長)に就任 ・5階西病棟に療養病棟(50床)を設置、休床病床を4階東病棟から5階東病棟に変更 <p>2008 (平成20) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・改革プランを策定 ・るもい家庭医療後期研修プログラムが一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会の認定を受ける <p>2009 (平成21) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・包括医療費支払い制度方式(DPC)を導入 <p>2010 (平成22) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病および糖代謝異常を判断する方法が特許認定を受ける(発明者:笹川裕) ・プチ健診が開始 ・総合内科医養成研修センターが運営開始 <p>2011 (平成23) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東雲診療所が開院 ・回復期リハビリテーション病棟を開設 ・不良債務の解消を達成 <p>2012 (平成24) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新医療情報システムが稼働 ・東雲診療所で午後診療を開始 <p>2013 (平成25) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害派遣医療チーム(DMAT)指定病院の認定を受ける ・院内総合的物質管理(TQM)チームが発足 <p>2014 (平成26) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療連携ネットワークシステム「たいせつ安心i医療ネット」に加入 ・地域医療教育研究センターを開設 ・大腸カプセル内視鏡検査を開始 ・院内トリアージを開始 <p>2015 (平成27) 年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード決済を開始 ・留萌市病院事業管理者(院長)を退職、名誉院長に就任 |
|---|--|



笹川前院長が名誉院長になりました

今年6月30日付で退職した笹川前院長が、7月1日付で市立病院名誉院長に就任しました。



22年間の功労と功績 留萌の将来への期待

笹川名誉院長は、平成5年10月に副院長として赴任してから退職した今年までの22年間、誠実で思いやりのある診療を行うとともに、市立病院の体制強化や医療設備の充実などに努めてきました。財政難が深刻だった19年に院長に就任し、改革プランを策定するなど病院運営の健全化を図り、23年に不良債務の解消を達成しました。

また、笹川名誉院長は、東雲診療所や地域医療教育研究センターを開設するなど地域医療の向上にも力を注いできました。「今は新旧交代の時期にありますが、若い医師が不足しています。若い医師の確保が急務で、そういった人材を地域で育てることが大切です」と話しています。留萌の将来については「これからは医療や介護、行政、地域がこれまでに以上に連携していくことが重要となっていきます。これらが協力し合い、さらに留萌の実情に合った医療環境、医療システムが築かれていくことを期待しています」と語っています。

地域医療マインドのある医療人育成

地域医療を取り巻く環境は現在とても厳しい状態にあり、特に平成16年に新医師臨床研修制度が導入されてからは、地方都市の医師不足は深刻化しています。このため、市立病院では道内の医育大学と連携し、24年から卒後臨床研修医の受け入れや医学生への地域医療実習に積極的に取り組んでいます。

これからは、地域医療への理解をさらに深め、「地域医療マインド」を持った医師を育てていくことが求められています。しかし、地域医療については、大学内での研究や講義で学ぶことはできません。医学生のころから実際に地域に飛び込み、患者様とコミュニケーションを取って経験を積んでいくことが必要となります。そのため、地域の皆さんの理解と協力が大切です。

市立病院には、基幹病院として適正な医療を継続的に提供していくという責務があります。名誉院長として、将来の地域医療を支える医療人育成に向け、微力ではありますが力を尽くしていきたいと考えています。



市立病院名誉院長 ささがわ ゆたか 笹川 裕 氏